## 職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置		, ii	12.	長名			所在地	U		
大原医療秘書福祉												
学校横浜校								045-311-6821				
設置者名		設立	認可年月	1日	代表	長者名	Ŧ ·	101-0065	所在地	<u>n</u>		
学校法人大原	学園	昭和	154年4月	1日	中本	毎彦		東京都千代田区西ネ 03-3292-6266	申田一丁目1番3号			
分野		認定課程名			認定学科名	名		士認定年度	高度専門士謡	忍定年度	職業実践専	[門課程認定年度
教育·社会福祉	教育社	と会福祉専門	門課程	1	介護福祉学	科	平成	21(2009)年度	_		平成2	7(2015)年度
学科の目的	祉士国家	資格を取得す	ることを目	的とする。」	具体的には		要な介護方法	冨祉施設等と連携し、 法、介護の意義、社会				
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)		な資格:介護 和6年度):5			ョンインストラ	ラクター						
修業年限	昼夜	全課程の修		な総授業時 立数	数又は総	講	義	演習	実習	9	実験	実技
2	昼間	※単位時間、単	単位いずれ	2,074	単位時間	1,160	) 単位時間	878 単位時間	456 単位時間	(	0 単位時間	0 単位時間
生徒総定員		かに記入 を員(A)	<b>空学生</b>	数(生徒実員の	単位 (R)	留学生割	- 単位  全(R/A)	中退率	- 単位		- 単位	- 単位
			田丁工									
80 人	31 ■卒業者			1	人 22	3	3 %	5 %				
		致(O) 望者数(D)	:		19		<del></del>					
	■就職者		:		19		<u> </u>					
	I■地元別 ■就職率	職者数(F) (E/D)			18 100		- 人					
		に占める地方	元就職者 <i>0</i>	割合(F/E	)							
	■六米⇒	こ占める就職	**~*	(E/O)	95		%					
	■쑤耒右	こ占める就職	域者の割合	(E/C)	86		%					
	■進学者				1		Ž					
就職等の状況	■その他											
	  アルバイ	-:2人										
	(令和			に関する令	和7年5月	1日時点の情	報)					
		職先、業界等	等									
	(令和6年度		A =## dw	. /						<del></del>	+ ^ 4+ D.1 <del>**</del> =	
								光会、新横浜さわぐ 社会福祉法人ふる				
		、ハロマンハト	个胜地以		レインバンにいい	( IT X IH III /	ムハ爬ガム、	「日本田田四八つい	CCDMTT	支援七八八	A 10% 1 D 10%	门、江五田江丛八
	健仁会	等										
	健仁会 <sup>4</sup> ■民間の	評価機関等		者評価:				無				
第三者による	健仁会 <sup>4</sup> ■民間の			者評価:				無				
第三者による 学校評価	健仁会 <sup>全</sup> ■民間の ※有の場合	評価機関等		者評価:		受審年月:		評	価結果を掲載した			
学校評価	健仁会 <sup>全</sup> ■民間の ※有の場合	評価機関等、例えば以下(		者評価:		受審年月:		評	価結果を掲載した ームページURL			
学校評価  当該学科の	健仁会 学 ■民間の ※有の場合	評価機関等 、例えば以下( 評価団体:	について任	者評価: 意記載		受審年月:		評				
学校評価	健仁会 学 ■民間の ※有の場合	評価機関等、例えば以下(	について任	者評価: 意記載		受審年月:		評				
学校評価  当該学科の ホームページ	健仁会 <sup>3</sup> ■民間の ※有の場合 URL: htt	評価機関等 、例えば以下( 評価団体: p://yokohan	について任 ma.o-hara	者評価: 意記載		受審年月:		評				
学校評価  当該学科の ホームページ	健仁会 <sup>3</sup> ■民間の ※有の場合 URL: htt	評価機関等 、例えば以下/ 評価団体: p://yokohan 立時間による	について任 ma.o-hara	者評価: 意記載		受審年月:		評		2 07.	<b>小磁体吐服</b>	
学校評価  当該学科の ホームページ	健仁会 <sup>3</sup> ■民間の ※有の場合 URL: htt	評価機関等 ・例えば以下 評価団体: p://yokohan 立時間による 総授業時数	について任 ma.o-hara 算定)	者評価: 意記載 .ac/	, de 50, de 11			評			4 単位時間	
学校評価  当該学科の ホームページ	健仁会 <sup>3</sup> ■民間の ※有の場合 URL: htt	評価機関等 ・例えば以下に 評価団体: p://yokohan 立時間による 総授業時数	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等	者評価: 意記載 .ac/		冒・実技の授		評		45	6 単位時間	
学校評価  当該学科の ホームページ	健仁会 <sup>3</sup> ■民間の ※有の場合 URL: htt	評価機関等 ・例えば以下に 評価団体: p://yokohan 立時間による 総授業時数	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等	者評価: 意記載 .ac/	<b>≿実験・実</b> 習 ≿演習の授業	冒・実技の授		評		45		
学校評価  当該学科の ホームページ	健仁会 <sup>3</sup> ■民間の ※有の場合 URL: htt	評価機関等 、例えば以下( 評価団体: p://yokohan 立時間による: 総授業時数	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等	者評価: 意記載 .ac/ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		冒・実技の授		評		45	6 単位時間	
学校評価  当該学科の ホームページ	健仁会 <sup>3</sup> ■民間の ※有の場合 URL: htt	評価機関等 、例えば以下( 評価団体: p://yokohan 立時間による: 総授業時数	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等 うち企業等	者評価: 意記載 .ac/ をと連携した をと連携した	≿演習の授業	習・実技の授: 終時数		評本		2, 07	6 単位時間 0 単位時間	
学校評価  当該学科の ホームページ	健仁会 <sup>3</sup> ■民間の ※有の場合 URL: htt	評価機関等 、例えば以下( 評価団体: p://yokohan 立時間による: 総授業時数	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等 うち企業等	者評価: 意記載 .ac/ を連携した をと連携した を楽時数 うち企業等	と連携した	習・実技の授: 終時数	業時数・実習・実技	評本		2, 07- 45	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL	健仁会 <sup>3</sup> ■民間の ※有の場合 URL: htt	評価機関等 、例えば以下( 評価団体: p://yokohan 立時間(こよる) 総授業時数	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等 うち企業等 うち必修搭	者評価: 意記載 .ac/ をと連携した をと連携した をと連携した うち企業等 うち企業等	と連携した と連携した	習・実技の授: 注時数 ・必修の実験	業時数 ・実習・実技 の授業時数	評本		450 2, 07- 450	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間	
学校評価  当該学科の ホームページ	健仁会 <sup>3</sup> ■民間の ※有の場合 URL: htt	評価機関等 、例えば以下( 評価団体: p://yokohan 立時間(こよる) 総授業時数	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等 うち企業等 うち必修搭	者評価: 意記載 .ac/ をと連携した をと連携した をと連携した うち企業等 うち企業等	と連携した と連携した	音・実技の授: 集時数 必修の実験 必修の演習	業時数 ・実習・実技 の授業時数	評本		450 2, 07- 450	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した にくる、Bいずれか	健仁会 standard the second of t	評価機関等 、例えば以下( 評価団体: p://yokohan 立時間(こよる) 総授業時数	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等 うち企業等 うち必修持	者評価: 意記載 .ac/ をと連携した をと連携した をと連携した うち企業等 うち企業等	と連携した と連携した	音・実技の授: 集時数 必修の実験 必修の演習	業時数 ・実習・実技 の授業時数	評本		450 2, 07- 450	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況	健仁会 standard the second of t	評価機関等: 例えば以下( ・ 例えば以下( ・ のまでは) がいます。 ・ のは、 ・ のは、 、 のは、 ・ のは、 ・ のは、 ・ のは、 ・ のは、 、 のは、 、 のは、 、 のは、 、 のは、 、	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等 うち企業等 うち必修持	者評価: 意記載 .ac/ をと連携した をと連携した をと連携した うち企業等 うち企業等	と連携した と連携した	音・実技の授: 集時数 必修の実験 必修の演習	業時数 ・実習・実技 の授業時数	評本		45( 2, 07- 45(	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した にくる、Bいずれか	健仁会 standard the second of t	評価機関等に、例えば関下に ・のでは、 ・し。 ・し。 ・し。 ・し。 ・し。 ・し。 ・し。 ・し。	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等 うち企業等 うち必修持 (うち企業	者評価: 意記載 .ac/ を連携した をと連携した を実時数 うち企業等 うち企業等	≃演習の授業 ≩と連携した ≩と連携した たインター	引・実技の授: 時数 必修の実験 必修の演習 ・・ンシップの	業時数 ・実習・実技 の授業時数 授業時数)	評本		450 2, 074 450 0	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した にくる、Bいずれか	健仁会 standard the second of t	評価機関等に、例えば関下に ・ののでは、 ・ののでは、 ・しでは、 ・しでは、 ・しでは、 ・しでは、 ・しでは、 ・しでは、 ・しでは、	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等 ううち企業等 (うち企業 定)	者評価: 意記載 。ac/ を連携した をと連携した うち企業等 うち企業等 きと連携した	<ul><li>実際・実習</li></ul>	『・実技の授: 時数 必修の実験 必修の演習 ・ンシップの 『・実技の単	業時数 ・実習・実技 の授業時数 授業時数)	評本		450 2, 074 450 0	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した にくる、Bいずれか	健仁会 standard the second seco	評価機関等に、例えば関いて、 評価機関等に 評価団体・ からは、 対のはは、 対のはは、 がのでは、 がでは、	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等 ううち企業等 定) うち企業等 定)	者評価: 意記載 .ac/ を連携した を連携した うち企業等 うち企業等 うち企業等と連携した をと連携した	≃演習の授業 ≩と連携した ≩と連携した たインター	『・実技の授: 時数 必修の実験 必修の演習 ・ンシップの 『・実技の単	業時数 ・実習・実技 の授業時数 授業時数)	評本		450 2, 07- 450 0	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した にくる、Bいずれか	健仁会 standard the second seco	評価機関等に、例えば関いて、 評価機関等に 評価団体・ からは、 対のはは、 対のはは、 がのでは、 がでは、	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等 ううち企業等 (うち企業 定)	者評価: ac/ を連携したたと連携したため、 うち企業等 うち企業等と連携したをと連携したをと連携したをと連携したをと連携したをと連携したをと連携したと	と演習の授業 をと連携した とと連携した たインター と実験・実習	『・実技の授: 時数 必修の実験 必修の演習 ・ンシップの 『・実技の単	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 受業時数)	解求の授業時数		450	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した にくる、Bいずれか	健仁会 standard the second seco	評価機関等に、例えば関いて、 評価機関等に 評価団体・ からは、 対のはは、 対のはは、 がのでは、 がでは、	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等 ううち企業等 定) うち企業等 定)	者評価: ac/ をと連携したた をと連携した うち企業等 うち企業等 と連携した なる。 うち企業等 と連携した なる。 なる。 なる。 なる。 なる。 なる。 なる。 なる。	上演習の授業 まと連携した まと連携した たインター 上来験・実習 上演習の単位	引・実技の授: ・ 実技の授: ・ 必修の実験 ・ 必修の演習。 ・ 一 ンシップの ・ 一 実技の単作 ・ 対数	<ul><li>業時数</li><li>・実習・実技 か授業時数)</li><li>位数</li><li>・実習・実技</li></ul>	解求の授業時数		450	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した にくる、Bいずれか	健仁会 standard the second seco	評価機関等に、例えば関いて、 評価機関等に 評価団体・ からは、 対のはは、 対のはは、 がのでは、 がでは、	について任 ma.o-hara 算定) うち企業等 ううち企業等 定) うち企業等 定)	者評価: ac/ をと連携したた をと連携した うち企業等 うち企業等 と連携した なる。 うち企業等 と連携した なる。 なる。 なる。 なる。 なる。 なる。 なる。 なる。	上演習の授業 まと連携した まと連携した たインター 上来験・実習 上演習の単位	『・実技の授: 時数 必修の実験 必修の演習 ・ンシップの 『・実技の単	<ul><li>業時数</li><li>・実習・実技 か授業時数)</li><li>位数</li><li>・実習・実技</li></ul>	解求の授業時数		450	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	健仁会 standard the second seco	評価機関い、例えば関いて、 ・ ののでは、 ・ のでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ のでは、 ・ のでは、 ・ のでは、 ・ のでは、	について任 ma.o-hara 算定) うち企業業等 (うちを企業 (うちを企業 (うちを企業業等)	者評価: ac/ をと連携したたきと連携したを楽時から企業等をと連携したを全連携したを全連携したを全連携したをと連携したをときと連携したをときると連携したをときるとをできる。	に演習の授業 まと連携した まと連携した たインター と実験・実習 と演習の単位 まと連携した を連携した を実験・実習 を連携した を実験・実習 を連携した を実験・実習 を連携した を実験・実習 を連携した を を に対した を に対した を に対した にが にが にが にが にが にが にが にが にが にが	引・実技の授: ・ 実技の授: ・ 必修の実験 ・ 必修の演習。 ・ 一 ンシップの ・ 一 実技の単作 ・ 対数	業時数 ・実習・実技 か授業時数) 位数 ・実習・実技 の対象	解求の授業時数		450	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況へのよく。	健仁会 standard the second seco	評価機関い、例えば関いて、 ・ ののでは、 ・ のでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ のでは、 ・ のでは、 ・ のでは、 ・ のでは、	について任 ma.o-hara 算定) うち企業業等 (うちを企業 (うちを企業 (うちを企業業等)	者評価: ac/ をと連携したたきと連携したを楽時から企業等をと連携したを全連携したを全連携したを全連携したをと連携したをときと連携したをときると連携したをときるとをできる。	に演習の授業 まと連携した まと連携した たインター と実験・実習 と演習の単位 まと連携した を連携した を実験・実習 を連携した を実験・実習 を連携した を実験・実習 を連携した を実験・実習 を連携した を を に対した を に対した を に対した にが にが にが にが にが にが にが にが にが にが	『・実技の授: (時数 ・必修の実験 ・必修の演習 ・シシップの ・・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 変数 ・ ・ 必修の実験 ・ ・ 必修の演習 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	業時数 ・実習・実技 か授業時数) 位数 ・実習・実技 の対象	解求の授業時数		450	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した にくる、Bいずれか	健仁会 standard the second seco	評価機関い、例えば関いて、 ・ ののでは、 ・ のでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ ののでは、 ・ のでは、 ・ のでは、 ・ のでは、 ・ のでは、	について任 ma.o-hara 算定) うち企業業等 (うちを企業 (うちを企業 (うちを企業業等)	者評価: ac/ をと連携したたきと連携したを楽時から企業等をと連携したを全連携したを全連携したを全連携したをと連携したをときと連携したをときると連携したをときるとをできる。	に演習の授業 まと連携した まと連携した たインター と実験・実習 と演習の単位 まと連携した を連携した を実験・実習 を連携した を実験・実習 を連携した を実験・実習 を連携した を実験・実習 を連携した を を に対した を に対した を に対した にが にが にが にが にが にが にが にが にが にが	『・実技の授: (時数 ・必修の実験 ・必修の演習 ・シシップの ・・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 変数 ・ ・ 必修の実験 ・ ・ 必修の演習 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	業時数 ・実習・実技 か授業時数) 位数 ・実習・実技 の対象	解求の授業時数		450	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか	健仁会 standard the second seco	評価機関下 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ が が が が が が が が が が が が が	について任 ma.o-hara 算定) うちな企企企企企企を必修 でする。 です。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。	者記載  ac/  をと連携したたきと連携したたる企業ちを企連携したたちを企連携したたちを企連携したたちを企連携したたるを企連携したたきと連携したたきとをを変	に演習の授業 まと連携した よたインター と実験・実置 をと連携した と実験・実置 したインター したインター したインター したインター したインター したインター	『・実技の授 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の演習 ・ンシップの! ・・実技の単位 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 位数 ・実習・実技 の授業時数)	解求の授業時数		450	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況へのよく。	健仁会 standard the second seco	評価機関い ・ が が が が が が が が が が が が が	について任 ma.o-hara 算定) うち企企業業修 うううう (ううううう (ううううう (ううううう (ううううう (ううち企企を必修 (する) ( ( ( (	者意記載  ac/  bと連携しした  bと連携しした  bと連携しした  bとを連携しした  be とを連携しした  be とを連携した  compared by accompared by a	に演習の授業 まと連携した よと連携したインター と実験・実単位 たまと連携したインター を表と連携したインター なきと連携したがあった。 ともであった。	『・実技の授』 ・実技の授。 ・必修の実験 ・必修の演習。 ・シシップの ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・	・実習・実技 ・実習・実技 か授業時数) 位数 ・実習・実技 が単位数)	解求の授業時数	- A ~ - YUR L	455	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況へのよく。	健仁会 standard the second seco	評価機関い ・ が が が が が が が が が が が が が	について任任 ma.o-hara 算 うううう (う 定 ) うううう (う 定 ) うううう (う 校 る 収 を 事 等 ) は な 教と す 等 等 単 単 第 [ 1 等 ] 数 で 数 と の の 教と か の の 教 と か と か と か と か と か と か と か と か と か と	者意記載  ac/  bと連携しした  bと連携しした  bと連携しした  bとを連携しした  be とを連携しした  be とを連携した  compared by accompared by a	に演習の授業 まと連携した よと連携したインター と実験・実単位 たまと連携したインター を表と連携したインター なきと連携したがあった。 ともであった。 ともであった。	『・実技の授 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の演習 ・ンシップの! ・・実技の単位 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・実習・実技 ・実習・実技 か授業時数) 位数 ・実習・実技 が単位数)	の授業時数の単位数	- A ~ - YUR L	455	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した況へのよく。	健仁会 standard the second seco	評価機関等 に か	について任任 ma.o-hara	者記記載  ac/  をと連携しした  をと連携的企企連携した  たきと連携の企企連携した  をを連進機とした  をを連進機とした  ををでした  をしたが  をなる企産  はした  をいるでは   をいるでは	に演習の授業 まと連携した よと連携したインター と実験・実単位 たまと連携したインター を表と連携したインター なきと連携したがあった。 ともであった。 ともであった。	『・実技の授』 ・実技の授。 ・必修の実験 ・必修の演習。 ・シシップの ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・	業時数 ・実習・実技 の授業時数 の受業時数 の単位数 ・実習・実技 の単位数 ・実習・実技	呼楽時数 の授業時数 の単位数	ームページUR L	450	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した にくる、Bいずれか	健仁会 standard the second seco	評価機は (する) が (する) が	について任任 ma.o-hara	者記記載  ac/  をと連携しした  をと連携的企企連携した  たきと連携の企企連携した  をを連進機とした  をを連進機とした  ををでした  をしたが  をなる企産  はした  をいるでは   をいるでは	に演習の授業 まと連携した よと連携したインター と実験・実単位 たまと連携したインター を表と連携したインター なきと連携したがあった。 ともであった。 ともであった。	『・実技の授』 ・実技の授。 ・必修の実験 ・必修の演習。 ・シシップの ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・	業時数 ・実習・実技 の授業時数 の受業時数 の単位数 ・実習・実技 の単位数 ・実習・実技	の授業時数の単位数	ームページUR L	450	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 - 単位	
学校評価 当該学科のホームパージ URL 企業等と連携した況か に記入)	健仁会 ■ CR間場合 WRL: httl (A:単位	評価機関等 に か	について任任 ma.o-hara	者記載  ac/  をと連携しした  をと連携しした  をと連携しした  をと連携したた  をとを  をとを  をとを  をと  をと  をと  をと  をと  を	に演習の授業 まと連携した よと連携したインター と実験・実単位 たまと連携したインター を表と連携したインター なきと連携したがあった。 ともであった。 ともであった。	『・実技の授』 ・実技の授。 ・必修の実験 ・必修の演習。 ・シシップの ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・	業時数 ・実習・実技 か授業時数 の授業時数 ・実性位数 ・実性位数 ・実体 の単位数) ・専修学科	呼楽時数 の授業時数 の単位数	- 本ページURL   	450	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位 - 単位	
学校評価 当該学科のホームの は URL の では では できる できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる	健仁会 ■ CR間場合 WRL: httl (A:単位	評価機関下: 評価機関下: か数	について任任 ma.o-hara 算 うううう (う 定 ) うううう (う 定 ) うううう (う 定 ) うううう (う た 変 楽 準 修 が 変 を 変 を 変 を 変 を 変 を 変 を 変 を 変 を 変 を 変	者記載  ac/  をと連携しした  をとと連携しした  をとと連携したた  をとと連携したた  をとと連携したた  をとと連携したた  ををと連携したた  ををとを  ををとを  ををして  ををし	に演習の授業 まと連携した よと連携したインター と実験・実単位 たまと連携したインター を表と連携したインター なきと連携したがあった。 ともであった。 ともであった。	『・実技の授』 ・実技の授。 ・必修の実験 ・必修の演習。 ・シシップの ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・	業時数 ・実習・実技 か授業時数 の授業時数 ・変性 の単位数 ・実性 の単位数 ・実体 ・実体 ・実技 ・実技 ・実体	が の授業時数 の単位数 の単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	ームページURL   	450	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 - 単位	
学校評価 当該学科のホームパージ URL 企業等と連携した況か に記入)	健仁会 ■ CR間場合 WRL: httl (A:単位	評価機関 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	について任任 ma.o hara	者記載  ac/  をと連携しした  をとと連携しした  をとと連携したた  をとと連携したた  をとと連携したた  をとと連携したた  ををと連携したた  ををとを  ををとを  ををして  ををし	に演習の授業 まと連携した よと連携したインター と実験・実単位 たまと連携したインター を表と連携したインター なきと連携したがあった。 ともであった。 ともであった。	『・実技の授』 ・実技の授。 ・必修の実験 ・必修の演習。 ・シシップの ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・	業時数 ・実習・実技  が授業時数  位数 ・実習・実技 の単位数  の単位数 (専修学科 (専修学科 (専修学科	の授業時数 の授業時数 の単位数 の単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	ームページURL   第1号)   第2号)   東第3号)   東第3号)	455	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 1 単位 1 単位 1 単位 2 単位 0 人 0 人 0 人	
学校評価 当該学科のホームの は URL の では では できる できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる	健仁会 ■ CR間場合 WRL: httl (A:単位	評価機はいい。	について任任 ma.o hara	者記載  ac/  をと連携しした  をとと連携しした  をとと連携したた  をとと連携したた  をとと連携したた  をとと連携したた  ををと連携したた  ををとを  ををとを  ををして  ををし	に演習の授業 まと連携した よと連携したインター と実験・実単位 たまと連携したインター を表と連携したインター なきと連携したがあった。 ともであった。 ともであった。	『・実技の授』 ・実技の授。 ・必修の実験 ・必修の演習。 ・シシップの ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・	業時数 ・実習・実技  が授業時数  位数 ・実習・実技 の単位数  の単位数 (専修学科 (専修学科 (専修学科	が の授業時数 の単位数 の単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	ームページURL   第1号)   第2号)   東第3号)   東第3号)	455	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 1 単位 1 単位 2 単位 2 単位 0 人 0 人 0 人 0 人	
学校評価 当該学科のホームの は URL の では では できる できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる	健仁会 ■ CR間場合 WRL: httl (A:単位	評価機関 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	について任任 ma.o hara	者記載  ac/  をと連携しした  をとと連携しした  をとと連携したた  をとと連携したた  をとと連携したた  をとと連携したた  ををと連携したた  ををとを  ををとを  ををして  ををし	に演習の授業 まと連携した よと連携したインター と実験・実単位 たまと連携したインター を表と連携したインター なきと連携したがあった。 ともであった。 ともであった。	『・実技の授』 ・実技の授。 ・必修の実験 ・必修の演習。 ・シシップの ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・	業時数 ・実習・実技  が授業時数  位数 ・実習・実技 の単位数  の単位数 (専修学科 (専修学科 (専修学科	の授業時数 の授業時数 の単位数 の単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	ームページURL   第1号)   第2号)   東第3号)   東第3号)	455	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 1 単位 1 単位 1 単位 2 単位 0 人 0 人 0 人	
学校評価 当該学科のホームの は URL の では では できる できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる	健仁会 ■ CR間場合 WRL: httl (A:単位	評価機はいい。	について任任 ma.o hara	者記載  ac/  をと連携しした  をとと連携しした  をとと連携した  をとと連携した  をとと連携した  をとと連携した  をとと連携した  をとと連携した  ををした	に演習の授業 まと連携した よと連携したインター と実験・実単位 たまと連携したインター を表と連携したインター なきと連携したがあった。 ともであった。 ともであった。	『・実技の授』 ・実技の授。 ・必修の実験 ・必修の演習。 ・シシップの ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・	業時数 ・実習・実技  が授業時数  位数 ・実習・実技 の単位数  の単位数 (専修学科 (専修学科 (専修学科	の授業時数 の授業時数 の単位数 の単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	ームページURL   第1号)   第2号)   東第3号)   東第3号)	455	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 1 単位 1 単位 2 単位 2 単位 0 人 0 人 0 人 0 人	
学校評価 当該学科のホームの は URL の では では できる できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる	健仁会 ■ CR間場合 WRL: httl (A:単位	評価機関いて: p://yokohan	について ma.o hara	者意記載  「語記載」  「語記載」  「語記載」  「記述」  「記述】  「	流演習の授業 と連携した をととは連携した ・ 実験のの ・ 実単位 ・ とをとたインター ・ 実験ののした ・ 実単位 ・ とをとたれている。 ・ であり、 ・ できたり、 ・ できたりをもたりをしたりをもたりをもたりをもたりをもたりをもたりをもたりをもたりをもたりをもたりをも	『・実技の授: ・実技の授: ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の実験 ・シシップの ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・	業時数 ・実習・実技 の授業時数) ・実間位数 ・実性位数) (専修学科 (専修学科	の授業時数 の授業時数 の単位数 の単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	- 二人ページURL - 第1号) - 第3号) (第3号) (第4号) (第5号)	455	6 単位時間 0 単位時間 4 単位時間 6 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 1 単位 1 単位 2 単位 2 単位 0 人 0 人 0 人 0 人	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針
- ①厚生労働大臣介護福祉士養成施設として、法令で定められた教育課程並びに外部実習又は就職先である老人、障害者施設等と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②介護福祉士養成における各領域「人間の理解」、「介護」、「こころとからだのしくみ」、「医療的ケア」の教育内容に関して、教育課程編成委員会を诵じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で 評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。
- ④当学園の教育課程の編成は一部の学科を除き学園本部が統括している。そのため教育課程編成委員会も各分野ごとに各校共通の組織を設置する。
- (2)教育課程編成委員会等の位置付け
- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
- ①位置づけについて

医療福祉保育課の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。また、委員会での協議結果は大原学園教育本部に提出し、大原学園全校の教育課程編成にも活用していく。

- ②意思決定の過程について
  - (ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。
  - (イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。
  - (ウ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全校の教育課程編成にも活用していく。
  - (エ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、教務部長、教務課長が参加することで、企業等の委員から 提示された課題・改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることが できる。

#### (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

			10. H 20. H
名 前	所 属	任期	種別
仁科 幸久	大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校 校 長		
小木曽 勇士	大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校 副 校長		
斉藤 誠一	大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校 教務課長代理		
前田 卓哉	会長	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	1
佐々木 学	医療法人積愛会 介護老人保健施設 千の星・よこはま 事務長	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	3

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
  - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
    - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
  - ②学会や学術機関等の有識者
  - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

## (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回開催する。

第1回:8月「前年度教育成果の振り返りと今後の取り組み」

第2回:12月「今年度の取り組みに関する報告・課題整理、次年度以降の教育内容に関する見直し」

(開催日時(実績))

令和6年度 第1回 令和6年8月2日 15:15~16:45 令和6年度 第2回 令和6年12月6日 15:30~17:00

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
- ①社会人基礎力について

社会人基礎力のセルフチェックシートを活用し、実習前に各自チェックを行う等の取り組みを行った。また、個人面談を実施し、実習で想定される具体的場面を示しながら弱みと思われるところを強化するような取り組みを行うなど、実習前指導に活かすことができた。

②認知症ケアにおけるケアモデルについて

養成校のテキストの中で取り扱われるパースンセンタードケアやユマニチュード、ひもときシート、センター方式等については、施設では、現状取り入れられていない状況であるが、利用者の生活を充実していくためにも、取り入れていかないければいけないと思っている。ただ、現状の介護に追われてしまっているため、なかなかできないのも現状。以上の意見をもとに、現場ではなかなか取り入れられない現状を知ることができた。ただ、国家試験対策として出題される内容でもあるため、継続して事例研究等行い、継続課題としていく。

- 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
- ①介護福祉士養成における実習・演習は、法令で定められた教育内容、施設での実施を基本としながら、高齢者、障害者施設等との連携の下、現場で求められる知識・技術を考慮して、実習・演習の組立てを行う。
- ②高齢者、障害者施設等との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人として の意識改革を実現する。
- ③高齢者、障害施設等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に 対して実践で活かせるレベルか否かを高齢者、障害者施設等の実務の視点から評価を仰ぐ。
- (2)実習・演習等における企業等との連携内容
- ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

高齢者、障害者施設等に介護実習受入れ依頼を行い、介護実習受入れ承諾書を頂戴するとともに、打合せを行っている。 なお、下記の4点について連携している。

- ①実習実施前に、授業科目担当者と実習指導者による、実習授業内容及び実習授業評価ポイントの確認
- ②施設内の各部署の見学、実習の実施
- ③学生の実習状況の確認及び実習指導者との情報交換のため、授業担当教員による週1回の施設訪問
- ④実習における学修成果の評価

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

Γ	科目名	企業連携の方法	科 目 概 要	連携企業等
	介護実習 I	3.【郊外】企業内実習 (4に該当するものを 除く)	1段階実習では、コミュニケーションの比較的とりやすい利用者を受け持ち、利用者との人間的なふれあいを通じて、利用者の需要と介護の機能、並びに施設職員の一般的な役割について学ぶ。初歩的な日常生活活動を、指導者の指導を受け援助する。1週間の内1回以上をケースカンファレンスの時間にあてることとする。	医療法人社団康久会 介護老人保健施設グリーンワーフ東戸塚、社会福祉法人ひまわり福祉会 特別養護老人ホーム富岡はまかぜ、社会福祉法人竹生会 特別養護老人ホームたきがしら芭蕉苑、社会福祉法人プレマ会 みなみ風、社会福祉法人親善福祉協会 特別養護老人ホーム恒春ノ郷、社会福祉法人 ひまわり福祉会 特別養護老人ホーム野庭苑ほか
	介護実習Ⅱ	3.【郊外】企業内実習 (4に該当するものを 除く)	い方について学ぶ。また、医療・看護との関連で独自の判断で行ってはならない仕事と連携の方法につ	

介護実習Ⅲ

3.【郊外】企業内実習 (4に該当するものを 除く) 3段階実習では、施設運営プログラムに参加し、サービス全般について理解すると同時に個別の介護過程の展開、記録の方法について学び、チームの一員として介護を遂行できるよう取り組む(現任準備教育)。さまざまなプログラムに参加し、利用者の24時間を通じての生活の把握、介護福祉士としての役割を学ぶ。

社会福祉法人昴 特別養護老人 ホームすずかけの郷、社会福祉法人 ひまわり福祉会 特別養護老人 ホーム富岡わかたけ、医療法人的 歯会 介護老人保健施設けいあい の郷今宿、社会福祉法人若竹大 寿会 介護老人保健施設リハリ ゾートわかたけ、社会福祉法人 以会 介護老人保健施設千の風・ 川崎、社会福祉法人いきいき福祉 会 特別養護老人ホームラポール 三ッ沢ほか

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
- ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人一人が常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。

「大原学園 教職員研修規程」の目的に定める通り、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるための環境を整備し、所属長の指示または本人の意思により、公平に研修等を受講する機会を与えるものとする。校内、郊外において企画する研修は下記の通り。

- ①横浜市介護老人保健施設連絡協議会、公立大学法人 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター等、関係団体の実施 する実践的な知識・指導スキル 研修の受講
- ②大学教授等専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施
- ③学内において設置される附帯教育講座を受講する自己啓発

なお、今後、実務に関する研修、指導力の修得・向上のための研修について、さらに効果的な研修にするため研修内容の 見直しを行っている。

#### (2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 教員指導力向上研修 連携企業等: 社会福祉法人敬心福祉会

期間: 令和7年3月10日 対象: 介護福祉学科担当

内容 高齢者虐待防止法の推進が盛り込まれ、尊厳を護る職業として何をすべきかを学ぶ。

②指導力の修得・向上のための研修等

「文章力・話す力を向上させる方法について一R80の活用 研修名: 法と効果を中心に一」 連携企業等:茨城県立並木中等教育学校

期間: 令和6年12月12日 対象: 介護福祉学科担当

内容 職員及び学生の文章力や話す力を向上させる方法を学ぶ

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 介護教員に対する研修会 連携企業等: 未定

期間: 令和8年3月予定 対象: 介護福祉学科担当

内容知識力向上のための研修を実施予定

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: アクティブ・ラーニング(AL)研修 連携企業等: 株式会社FCE エデュケーション

期間: 令和7年12月中旬 対象: 介護福祉学科担当

内容 講義及びワークを通して、文章カやプレゼンカ向上に繋げるALの知識、指導法について学ぶ研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1)学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

|(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の ガイドラインの評価項目	項目との対応   学校が設定する評価項目
73 11 7 12 63 H IM 75 L	
(1)教育理念•目標	①理念・目的・育成人材像は定められているか。 ②育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか。 ③理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか。 ④社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか。
(2)学校運営	①理念に沿った運営方針を定めているか。 ②理念等を達成するための事業計画を定めているか。 ③設置法人は組織運営を適切に行っているか。 ④学校運営のための組織を整備しているか。 ⑤危機管理体制は整備されているか。 ⑥人事・給与に関する制度を整備しているか。 ⑦意思決定システムを整備しているか。 ⑧情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。
(3)教育活動	①理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。 ②学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。 ③教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。 ④教育課程について、外部の意見を反映しているか。 ⑤キャリア教育を実施しているか。 ⑥授業評価を実施しているか。 ⑦成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。 ⑧作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。 ⑨目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。 ⑩資格・免許取得の指導体制はあるか。 ⑪資格・要件を備えた教員を確保しているか。 ⑪教員の資質向上への取組みを行っているか
(4)学修成果	①就職率の向上が図られているか。 ②資格・免許の取得率の向上が図られているか。 ③卒業生の社会的評価を把握しているか。
(5)学生支援	①就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。 ②退学率の低減が図られているか。 ③学生相談に関する体制を整備しているか。 ④学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。 ⑤学生の健康管理を行う体制を整備しているか。 ⑥学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか。 ⑦課外活動に対する支援体制を整備しているか。 ⑧保護者との連携体制を構築しているか。 ⑨卒業生への支援体制を整備しているか。 ①の産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んでいるか。 ①11社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか。
(6)教育環境	①教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか。 ②学習効果を図るための環境整備がなされているか。 ③学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。 ④防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ⑤学内における安全管理体制を整備し適切に運用しているか。

(7)学生の受入れ募集	①高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか。 ②学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか。 ③入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか。 ④入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか。 ⑤経費内容に対応し、学納金を算定しているか。 ⑥入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか。
(8)財務	①学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか。 ②学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を 行っているか。 ③教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか。 ④予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか。 ⑤私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか。 ⑥私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか。
(9)法令等の遵守	①法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。 ②学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか。 ③自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか。 ④自己評価結果を公表しているか。 ⑤学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか。 ⑥学校関係者評価結果を公表しているか。 ⑦教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか。
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 ②学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか。
(11)国際交流	

# ※(10)及び(11)については任意記載。

# (3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会において、教育成果および、卒業生の就職先に対する貢献度について評価をしていただいた。社会の変化に応じた柔軟な教育の提供に対してご意見を頂戴し、人生100年時代と言われる中で将来を見据えた対応スキルや時代が変わる中でも原点たるコミュニケーションカの向上に繋がるよう教育内容を研究して提供していく。

# (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
前田 卓哉	横浜市社会福祉協議会高齢福祉部会 副部会長	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	企業等委 員
角田 康郎	角田公認会計士·税理士事務所 所長	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	企業等委 員
三友 崇司	まいばすけっと株式会社 財務経理部 部長	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	企業等委 員
高岡 信輝	有限会社高岡 スポーツジムコスモス 代表取締役社長	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	企業等委 員
伊澤 大輔	虎ノ門桜法律事務所 代表弁護士	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	企業等委 員
三好 誠	医療法人徳洲会 湘南鎌倉総合病院 医事科主任	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	企業等委 員
山口 正子	社会福祉法人和泉福祉会 ナーサリー横浜ポートサイド 園長	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	企業等委 員
佐々木 学	医療法人積愛会 介護老人保健施設 千の星・よこはま 事務長	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	企業等委 員
星 千絵美	大原簿記情報ビジネス専門学校横浜校 卒業生	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	卒業生
大瀧 恵梨香	大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校 卒 業生	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	卒業生
疋田 恭基	大原法律公務員専門学校横浜校 卒業生	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	卒業生

	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	高校関係 者
石井 哲人	令和6年4月1日~ 令和8年3月31日(2年)	地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ · 広報誌等の刊行物 · その他(

URL: https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/

公表時期: 令和7年10月6日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係

))

- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
  - ①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。
  - ②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
  - ③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。
- (2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	  ①概要 ②教育方針 ③沿革
(2)各学科等の教育	①入学定員 ②受入方針 ③カリキュラム ④進級、卒業要件等 ⑤専門士・高度専門士の称号付与 ⑥目標とする国家試験、検定試 験等 ⑦主たる国家試験、検定試験等の合格実績 ⑧卒業生の進路
(3)教職員	① ① 教職員数 ② 教職員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	①キャリア教育 ②実習・実技等 ③就職支援等
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②課外活動
(6)学生の生活支援	①完全担任制 ②就職教育
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等
(8)学校の財務	①学園の財務状況公開
(9)学校評価	①学校関係者評価結果 ②自己点検評価結果
(10)国際連携の状況	①留学生の受入
(11)その他	

))

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

((ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(

URL: https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/

公表時期: 令和7年10月6日

# 授業科目等の概要

	#RE			Г					477	; <del>***</del> =	<b>⊢</b> >+	18	ᇎ	±/-	_	
		分 選択必修	自由選	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	法実験・実習・実技	校	<u>所</u> 校	事 任		との
1	0			人間の理解Ⅰ	人間の尊厳と自立では、介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。一つは福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。	1 前	30		0			0		0		
2	0			人間の理解Ⅱ	人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。チームマネジメントでは、ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏ま、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学習する。	前	60		0			0		0		
3	0			社会の理解	社会の理解では、生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、社会福祉と介護保険制度の介護等者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。		60		0			0		0		
4			0	人間と社会特 論 I	介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「人間の理解 I・I」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術にて得た知識を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。	,	30		0			0		0		
5	0			介護の基本 I	介護の基本では、介護福祉の基本となる理解し、介護福祉士としての倫理の必要解し、介護福祉である、介護を理解し、介護を支えるのとする人の理解と生活を支えるしくみ、クリスを受けるのでは、介護実践におけるな会とリスクを受けるが、のでは、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。	1	30		0			0		0		
6	0			介護の基本Ⅱ	介護の基本では、介護福祉の基本となる理 念を理解し、介護福社としての倫理の づき、その役割と機能である、介護を必 とする人の理解と生活を支えるしくみ、 方護実践における安全とリスク 支援、介護実践における安全とリスク安 をに関して、介護 実践の基礎となる知識を 理論的に学ぶ。	1前	30		0			0		0		
7	0			介護の基本皿	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必らなった。 とする人の理解と生活を支えるしくみ、つ立支援、介護実践における安全とリスク安全と対象ント、多職種連携、介護従事者のを全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。	1 前	30		0			0		0		
8	0			介護の基本Ⅳ	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必らしている。 とする人の理解と生活を支えるとしくみ、つまで、 と立支援、介護実践に君連携、介護従事者の文字をに関して、介護実践の基礎となる知識を全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。	1 後	30		0			0		0		

9	0	介護の基本V	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。	0
10	0	介護の基本Ⅵ	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。	0
11	0	コミュニケー ション技術 I	コミュニケーション技術では、人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。	0
12	0	生活支援技術 の基本	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	0
13	0	日常生活介護	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	0
14	0	日常生活介護Ⅱ	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	0
15	0	日常生活介護 IV	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	0
16	0	介護過程 I	介護過程では、介護過程の意義・目的及び 介護過程展開の一連のプロセスに関する基 礎的理解、介護過程とチームアプローチ、 個別事例を通じた介護過程の展開の実際に ついて、介護総合演習や介護実習、生活支 援技術等他の科目との連動を視野に入れ て、介護過程を展開できる能力を養う。	0
17	0	介護総合演習	介護総合演習では、各領域で学ぶ知識と技 術の統合、介護実践の科学的探究を通し、 介護実習での学びを深化させるとととも に、介護の専門職として思考や態度の形 成、自己教育力等を養う総合的な学習とす る。	0
18	0	介護総合演習Ⅱ	介護総合演習では、各領域で学ぶ知識と技 術の統合、介護実践の科学的探究を通し、 介護実習での学びを深化させるとととも に、介護の専門職として思考や態度の形 成、自己教育力等を養う総合的な学習とす る。	0

19	0		介護実習I	1段階実習では、コミュニケーションの比較的とりやすい利用者を受け持ち、利用者を受け持ち、利用者をの人間的なふれあいを通じて、利用者の需要と介護の機能、並びに施設職員の一般的な役割について学ぶ。初歩的な日常生の上活動を、指導者の指導を受け援助する。1週間の内1回以上をケースカンファレンスの時間にあてることとする。	1 後	120			0		0	0	0
20	0		介護実習Ⅱ	2 段階実習では、重度生活障害を有する障害者又は老人の施設を実習施設とし、障害者又は老人の施設を実習施設とし、障値して水のに応じて求められる介護技術の適正な用い方について学ぶ。また、医療・看護との関連で独自の判断で行ってはならない仕事と連携の方法について学ぶ。ケースカンファレンスを通し、利用者の介護ニーズに対応する方法について学ぶ。	1 後	160			0		0	0	0
21		0	介護特論 I	介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「介護の基本 I・II、生活支援技術の基本」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術にて得た知識を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。	: : : : 前	30	0			0		0	
22		0	介護特論Ⅱ	介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「介護の基本Ⅲ・Ⅳ・日常生活介護 I・Ⅱ」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術にて得た知識を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。	1 前	30	0			0		0	
23		0	介護特論皿	介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「介護の基本V・V・日常生活介護IV」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術にて得た知識を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。	1 後	30	0			0		0	
24		0	介護実践 I	企業や施設等での研修を通じて、社会人として組織に参加・貢献する経験を積み、学校生活やアルバイトでは得ることのできないことを学ぶ。	1	30		0			0	0	
25		0	介護実践Ⅱ	企業や施設等での研修を通じて、社会人として組織に参加・貢献する経験を積み、学校生活やアルバイトでは得ることのできないことを学ぶ。	1	30		0			0	0	
26	0		認知症の理解	認知症の理解では、認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や理念等について悪いなる主ななる主ない。また、認知症の原因となる主な氏言を状の特徴を学び、それらによっての影響にこされる機能の変化や日常生活へののの特になれて理解する。さらに利用者個々のの特性を踏まえた適切なケアを提供する認知症のあめた実力法、地域で生活する認知症のある人とその家族の支援体制のあり方、多職種連絡・協働のあり方について学ぶ。	1 1 後	60	0			0		0	
27	0		こころとから だのしくみ I	こころとからだのしくみ I では、介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとからだのしくみの基礎を学ぶ。	1 前	30	0			0		0	

28	0			ころとからだのしくみ II・III・IVでは、 ころとからだのしくみ Iの知識を基に、 用者の身じたくや食事、排泄などの生活 前 支える介護実践との関係を学ぶ。また、 末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支 を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。	0	0		0	C		
29	0			ころとからだのしくみ II・III・IVでは、 ころとからだのしくみ I の知識を基に、 用者の身じたくや食事、排泄などの生活 支える介護実践との関係を学ぶ。また、 末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支 を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。	0	0		0			
30		0	こころとから だのしくみ特 論 I	護を実践するための基盤となる教養や倫的態度の涵養に資する「こころとからだしくみI〜Ⅲ、認知症の理解」の総合的学習。これまで学習した知識・技術にてた知識を基に、介護福祉士として必要な質を総まとめする。	0	0		0	C	o l	
31	0		レクリエー ション基礎	クリエーションの発展過程を見据えなが目標と理念、レクリエーションの発展過程を見据えながまだ。を理解する。また、高齢者や障害者対するレクリエーションの与える影響なりまたうえで、生きがい支援やリハンリテーションとしてのレクリエーションとしてのレクリエーションとしてのレクリエーションとしてのレクリエーションとしてのレクリエーションとしてのレクリエーションとしてのレクリエーションとしてのレクリエーションとは、	0	0		0	C		
32	0		レクリエー ション指導	スピタリティートレーニングやアイスブーキングとは何かを理解して、コミュニーション能力と促進方法を身につけるマとする。また、目的にあわせたアクティを選択、展開、引き出し方法と活・更に、対象にあわせたアレンジ方法も、ででは験と指導体験にて、実践力を身にける。	0		0	0	C	)	
33	0		社会常識	会人としての心構えをはじめ、個人また 集団での仕事の進め方、報告連絡相談の 要性を理解する。また、先輩や上司、利 者など、他者への言葉遣いや立ち振る舞 、接遇力を演習を通して学習する。	0		0	0	C		
34	0		情報科学演習	存のソフトウェアを使用し、各種データ計や統計処理について学び、そのデータ2社内外へ報告するための技法(資料作成法)について学習する。	0		0	0			
35	0		人間と社会の 総合	護を実践するための基盤となる教養や倫 的態度の涵養に資する「人間と社会」の 合的な学習。これまで学習した知識・技 、介護実習にて得た現場経験を基に、介 福祉士として必要な資質を総まとめす	0	0		0	C	)	
36		0	人間と社会特 論 II	護を実践するための基盤となる教養や倫 的態度の涵養に資する「社会の理解」の 合的な学習。これまで学習した知識・技 にて得た知識を基に、介護福祉士として 要な資質を総まとめする。	0	0		0	C	)	
37		0	福祉実務	護保険制度の基礎知識を理解することを 的とし、介護が必要な状態の段階を把握 、介護サービスを利用する際の費用の流 、国、市町村などの関わりを学習する。	0	0		0	C		
38	0		コミュニケー ション技術 II	ミュニケーション技術では、人間関係と ミュニケーションで学ぶコミュニケー ョンの基礎的な知識を基盤に、本人及び 族とのよりよい関係性の構築や障害の特 に応じたコミュニケーションの基本的な 識・技術を習得する。介護におけるチー のコミュニケーションについて、情報共 の意義、活用、管理などに関する基本知 ・技術を習得する。	0	0		0	C	)	

39	0		福祉住環境 I	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	2 後	30	0			0		0	
40	0		家事介護	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡	2	30		0		0		0	
41	0		日常生活介護	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉肝具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	2 前	30		0		0		0	
42	0		日常生活介護 V	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉肝具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	2 前	30		0		0		0	
43	0		態・状況に応	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉肝具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	2 前	30		0		0		0	
44	0		介護過程Ⅱ	介護過程では、介護過程の意義・目的及び 介護過程展開の一連のプロセスに関する基 礎的理解、介護過程とチームアブローチ、 個別事例を通じた介護過程の展開の実際に ついて、介護総合演習や介護実習、生活支 援技術等他の科目との連動を視野に入れ て、介護過程を展開できる能力を養う。	2 前	60		0		0		0	
45	0		介護過程Ⅲ	介護過程では、介護過程の意義・目的及び 介護過程展開の一連のプロセスに関するび 礎的理解、介護過程とチームアプローチ、 個別事例を通じた介護過程の展開の実際に ついて、介護総合演習や介護実習、生活支 援技術等他の科目との連動を視野に入れ て、介護過程を展開できる能力を養う。	2 前	60		0		0		0	
46	0		介護総合演習皿	介護総合演習では、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるととともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習とする。	2	40		0		0		0	
47	0		介護実習皿	3 段階実習では、施設運営プログラムに参加し、サービス全般について理解すると同時に個別の介護過程の展開、記録の方法について学び、チームの一員として介護を済できるよう取り組む(現任準備教育)。さまざまなプログラムに参加し、利用者の24時間を通じての生活の把握、介護福祉士としての役割を学ぶ。	l 2 前	176			0		0	0	0
48	0		介護の総合	介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「介護」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術、介護実習にて得た現場経験を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。	2 後	90		0		0		0	
49		0	介護特論IV	介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「日常生活介護 田・V・利用者の状態・状況に応じた介護技術」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術にて得た知識を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。	2	30	0			0		0	

50		0	福祉住環境Ⅱ	利用者がなじみのある環境のもとでエン/ワーメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を場解する。また、安全で心地よい生活の場づくりについて学ぶ。	2 後	30	0			0		0	
51		0	介護実践Ⅲ	企業や施設等での研修を通じて、社会人として組織に参加・貢献する経験を積み、学校生活やアルバイトでは得ることのできないことを学ぶ。	<u></u> 2	30		0			0	0	
52		0	介護実践Ⅳ	企業や施設等での研修を通じて、社会人として組織に参加・貢献する経験を積み、学校生活やアルバイトでは得ることのできないことを学ぶ。	<u></u> 12	30		0			0	0	
53	0		発達と老化の 理解	発達と老化の理解では、介護を必要とする人の理解を深めるため、人間成長と発達の人の理解を深めるため、人間成長と発達のフサイクル各期(乳幼児期、学童におきる。 思想、 一、	2 前	60	0			0		0	
54	0		障害の理解	障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。	計 2 計 前	60	0			0		0	
55	0			こころとからだのしくみⅡ・Ⅲ・Ⅳでは、こころとからだのしくみⅠの知識を基に、利用者の身じたくや食事、排泄などの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。また、終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活す援を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。	前	30	0			0		0	
56	0		こころとから だのしくみの 総合	介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「こころとからたのしくみ」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術、介護実習にて得た現場総験を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。	2 後	30	0			0		0	
57			こころとから だのしくみ特 論 Ⅱ	介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「こころとからたのしくみⅣ、障害の理解、発達と老化の理解」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術にて得た知識を基に、介護福祉せとして必要な資質を総まとめする。	】 2 前	30	0			0		0	
58	0		医療的ケア	医療的ケアでは、医療的ケア実施の基礎と 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)、経管 栄養(基礎的知識・実施手順)について学 ぶ。	2	78	0	Δ	2, 494	0		0	

(卒業) 1. 卒業の認定は、修業年限以上在学して、下記に定める授業時数 2. 卒業要件: 校長が行う。 (1) 介護福祉学科は2, 074時間 2. 卒業が認定された者には、卒業証書を授与する		卒業要件及び履修方法	授業期間等	争
	卒業要件:	1. 卒業の認定は、修業年限以上在学して、下記に定める授業時数以上履修し、卒業審査に合格した者について、最終学年の終わりに校長が行う。 (1)介護福祉学科は2,074時間	1 学年の学期区分	2 期

履修方法:	(授業) 1. 授業は、講義・演習・実習もしくは実技のいずれかにより、またはこれらの併用で行うものとする。 (試験等) 1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認め等とさきは、近理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。 (学業成績) 1. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表す。秀は90点以上、秀、優、80点以下の長さした、可は60点以上、不可は60点以上、不可は60点以上、不可は60点大不可は40点表満とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。 2. 授業科目の成績は、前項の5種で表すとともに、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP(Grade-Point)を与える。	1 学期の授業期間	20 週
-------	--	-----------	------

#### (留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。